

# 国営飛鳥歴史公園 体験プログラム 歴史ガイド

～「橘寺」「亀石」「鬼の俎・鬼の雪隠古墳」を  
オリエンテーリングで巡る小学生を定点ガイド～



境内の往生院に上がり、ガイドの話に耳を傾け、「天井画」を見上げる子どもたち

五月晴れの5月15日（金）午後、歴史サークル6名が飛鳥でオリエンテーリングに取り組む小学生をガイドしました。

迎えたのは大和高田市立浮孔西小学校の6年生40人。「春の遠足」で毎年飛鳥



を訪れてい 東門でまず橘寺の特徴について説明を受けます。「入鹿首塚・飛鳥寺」をスタートした児童たち。「石舞台古墳」からは6班に分かれてオリエンテーリングを開始。グループごとにマップを頼りにルートを確認しながら「高松塚壁画館」までを巡り、歴史学習に取り組みました。

途中の「橘寺」「亀石」「鬼の俎・鬼の雪隠古墳」の3カ所で、訪れた児童をサークル員6人が定点ガイドで迎えました。



鬼の俎の説明に聞き入る

が定点ガイドで迎えました。

正門の東門から入山した児童たちは、聖徳太子ゆかりの「橘寺」で太子の伝承を聞き、不思議な造形の「二面石」「三光石」を見学。寺に伝わる



不思議な石造物「亀石」に興味津々

「田道間守（たじまのもり）」の伝説に聞き入りました。寺名の由来となった「橘」について、「ミカンの一種で、お菓子のルーツとなっています」と説明を受け、「そうなんだ」とつぶやいていました。また、「往生院」の天井画

を見上げ、格天井の正方形の中に一つ一つ描きこまれた花の絵の精巧さと豪華さに驚いていました。

次の「亀石」「鬼の俎・雪隠古墳」も飛鳥の謎の石造物の1つ。児童たちは、名前の由来となった伝説の説明に耳を傾け、飛鳥の歴史ロマンに触れていました。

この日は、県内外の小学校の“遠足デー”で、遊歩道は子どもたちであふれ、「亀石」「鬼の俎・雪隠古墳」の石造物の前で盛んに集合写真を撮っていました。

「亀石」の担当者は「次から次へと小学生たちがやって来て大忙しだったけれど、元気な子どもたちとふれあうことができ楽しかった」と話していました。

(文と写真：27期佐藤)



ユニークなネーミングの「鬼の雪隠」の説明に笑いがこぼれ、興味を示す子どもたち